

令和4年度労災疾病臨床研究事業費補助金
「過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究」
分担研究報告書(対策実装研究)

過労死等の防止のための対策実装に関する研究

研究分担者 酒井一博 公益財団法人大原記念労働科学研究所・主管研究員

＜研究要旨＞

【目的】産業界のステークホルダー(企業の経営者、大手企業の安全衛生のリーダー、業界団体、産業保健専門職、労務管理専門職、研究班)の協働体制(ステークホルダー会議)を構築し、過労死等の防止に関わる現場のニーズの把握及び良好実践例の収集を行い、ステークホルダーを交えた議論によって、定着と継続が可能な過労死等防止対策の実装の方策を検討することを目的とする。本年度は、産業現場での具体的な対策アクションを提案し、試行と評価を実施する。

【方法】ステークホルダー会議を開催し、関係者から意見聴取を行うとともに、各種調査の実施、開発したツールの試用などを行った。これらの結果を踏まえ、研究班、産業保健の有識者(産業医)及び労務の専門家(社会保険労務士)から成る対策実装チームが、次の5つの対策アクション案を作成した。①ハイリスク者の把握と対策、②重層構造の理解と深堀り、③中小事業場への産業保健サービスの提案、④生活習慣の改善、及び⑤改善型チェックリストの開発と実践。これらの各アクションの方法、これまでの結果等の詳細はアクションごとの報告で述べる。

【結果】産業場面でのアクションの実施状況を中心に記載する。①トラック運送業界団体の協力により、管理者によるハイリスク者の把握を支援するツールの開発・試用とアンケート調査を実施した。②重層構造に関して運輸及び建設事業者による意見収集を継続し、建設技術者の勤務-生活時間調査を実施した。③中小事業場の健康管理・労務管理の改善を支援するチェックツール(建設業版)を開発し、管理者による試用を実施した。④行動変容の支援に関する予備調査を建設技能労働者に対して実施し、トラッカーの効果・使用感等を調査した。⑤職場環境改善を支援するチェックリスト(トラックドライバー版)と改善プログラムを作成し、大手運送会社での試用を行った。

【考察】ツールの試行場面として、事業者団体による安全・健康一体的取り組みとの連携、パートナー事業者が参集する安全衛生に関するイベント、業務の効率化等を含む包括的検討との連携、及び企業の主導による従業員の健康増進の取り組みとの連携があげられた。企業・管理者の取り組みのメリットの理解と、参加する従業員の意義・目的の理解が重要と考えられた。

【この研究から分かったこと】過労死等の予防対策の実装に向けた情報が収集され、さらなる対策アクションの実行に向けた準備がなされた。

【キーワード】実装研究、運輸業、建設業

研究分担者:

高橋正也(労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター・センター長)
吉川 徹(同センター・統括研究員)
鈴木一弥(同センター・研究員)
中辻めぐみ(同センター・研究員)
高橋有記(同センター・研究員)
岩浅 巧(同センター・研究員)

北島洋樹(公益財団法人大原記念労働科学研究所・主任研究員)
石井賢治(同研究所・研究員)
深澤健二(株式会社アドバンテッジリスクマネジメント・メディカルアドバイザー)
研究協力者:
中西麻由子(なかにしヘルスケアオフィス代表・産業医)

野原理子(東京女子医科大学医学部・教授)
仙波京子(公益財団法人大原記念労働科学研究所・特別研究員)

A. 目的

これまでの過労死等の事案分析、疫学研究、実験研究、労働・社会分野の調査・分析などの実態と防止対策に関する研究により、長時間労働をはじめとする過労死等を引き起こす要因と、その防止のためのさまざまな課題が明らかにされてきた^{1), 2)}。これらの研究成果に基づき過労死等の防止対策を推進するためには、小規模の事業者が多い業種における事業者の規模や経営・経済的状況、さまざまな業種における重層的な構造(元請、下請け関係等)、業種や事業場の規模によって要求される制度が異なる安全衛生体制、業種や職種により異なる仕事の特性などの多様な要因に影響される対策実施の現実的可能性と継続可能性といった対策の実装面に関する検討が重要である。

そのため、令和3年4月に、酒井一博(大原記念労働科学研究所)を班長とする「過労死等防止対策実装研究班」を立ち上げ、過労死等の防止に関わる現場のニーズの把握及び良好実践例の収集を行い、定着と継続が可能な過労死等防止対策の実装の方策を検討することを目的として取り組みを開始した(図1)。この研究班の取り組みとして以下を実施してきた。(1)対策実装研究班、産業保健の有識者(産業医)及び労務の専門家(社会保険労務士)のメンバーによる「対策実装タスクフォース」を立ち上げた。(2)経営者、企業の安全衛生のリーダー、事業者団体のリーダー、タスクフォースのメンバーから構成される「ステークホルダー会議」を結成し、対策の適用・普及と定着・継続、すなわち対策の実装面を支援するツールの開発等のための研究を実施した。

本年度には、この体制により、過労死等の防止対策の実装のための課題の検討と、重点業種(運輸業、建設業)の現場のニーズと過重労働対策の良好実践例の収集を継続する。これまでの調査・検討結果に基づき、対策の実装面を重視した産業現場での具体的アクションを提案して試行と評価を実施する。

B. 方法

1. 対策アクションの提案

研究班、産業保健の有識者(産業医)及び

労務の専門家(社会保険労務士)のメンバーによる対策実装タスクフォースが次の5つのアクション案を作成した。①脳・心臓疾患のハイリスク者の把握と対策、②業界の重層構造の理解と深掘り、③中小事業場の健康管理・労務管理を支援する産業保健サービスの提案、④健康に関連する行動変容の支援による生活習慣の改善、及び⑤改善型チェックリストの開発と実践による職場環境改善(表2)。これらの各アクションの方法の詳細はアクションごとの報告で述べる。

2. ステークホルダー会議

ステークホルダー会議(表1、企業の経営者、企業の安全衛生のリーダー、業界団体、産業保健専門職、労務管理専門職、研究班)を開催し、対策アクションの実行可能性を議論した。

C. 結果

1. ツール作成と適用現場の検討

タスクフォースのメンバーによる5つの対策アクションごとのサブチームを立ち上げ、各アクションを実行するためのツール作成と適用する現場の検討・交渉を行った。各アクションの結果・進捗の概要を表2に示した。詳細はそれぞれのアクションの報告で述べる。ここでは、産業場面での対策アクションの実行の状況を中心に記載する。

2. アクション1:ハイリスク者の把握と対策

経営者・管理者が自社の脳・心臓疾患のハイリスク者を把握する取り組みを支援するツールを開発した。トラック輸送の事業者団体の協力により、このツールの試用とアンケート調査を実施した。

3. アクション2:重層構造の理解と深掘り

重層構造に関して運輸(大手及び中堅)及び建設事業者(大手)へのヒアリング等による情報の収集・整理を継続した。

勤務一生活時間と仕事に関する問題(ストレス等)を作業者が記入する調査用紙を作成し、建設技術者に対する調査を実施した。

4. アクション3:中小事業場への産業保健サービスの提案

中小事業場の健康管理・労務管理に関して、管理者による自社の状態の評価と改善を支援するための規模(従業員数)を考慮したツールを開発し、パートナー企業の代表者が参集する安全衛生に関するイベントでの記入のトライアルを実施した。

5. アクション 4:生活習慣の改善

健康に関する個人の行動変容を支援する方策を検討した。建設現場の作業者に、歩数、睡眠時間等を確認できるトラックの使用を依頼し、行動変容の有無、機器の使用感等を検討する予備的調査を実施した。

6. アクション 5:改善型チェックリストの開発と実践

職場環境改善を支援するチェックリスト(トラックドライバー版)と改善プログラムを作成し、大手運送会社でのチェックリストの試用を行った。

D. 考察

過労死等の対策を支援するツールの試用や提案したアクションの実行が実現した条件・状況について考察する。

1. 安全・健康一体的取り組み

健康起因事故の問題があり、その対策も課題となっている運輸業において、事業者団体による安全・健康一体的取り組みとの連携として、今回開発された脳・心臓疾患のハイリスク者の対策ツールの試用がなされた。

2. 安全衛生に関する既存の体制・取り組み

建設で協働する多種多様なパートナー企業の代表者が参集する安全衛生のイベントにおいて、自社の体制・状況をチェックするツールの試用がなされた。

3. 業務改善との連携

中堅建設業での業務の改善を含む包括的な目的を企図した取り組みと連携した生活時間調査が実施された。

4. 新技術を活用する先進的取り組み

大手建設会社と連携し、パートナー企業の技能労働者にトラックの使用を依頼する調査を実施し、この種の技術の適用の有効性と課題に関する情報を収集した。

E. 結論

企業の既存の体制や取り組みとの連携、業務の改善などを含む包括的な改善との連携、安全対策との連携による対策アクションの試行的実現の例があった。事業者のニーズ、現場のニーズを把握し、事業や現場の状況と既存の好事例を把握し、アイデアを検討する協議、及び事業者・管理者による取り組みのメリットの理解、参加する従業員等への取り組みの意

義・目的の十分な説明がなされていることが重要と考えられた。

F. 健康危機情報

該当せず。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

I. 文献

- 1) Takahashi M. Sociomedical problems of overwork-related deaths and disorders in Japan. Journal of Occupational Health,2019; 61: 269-277.
- 2) 高橋正也他 過労死等の実態解明と防止対策に関する総合的な労働安全衛生研究令和2年度 総括・分担研究報告書. 労災疾病臨床研究事業費補助金,令和3(2021)年3月

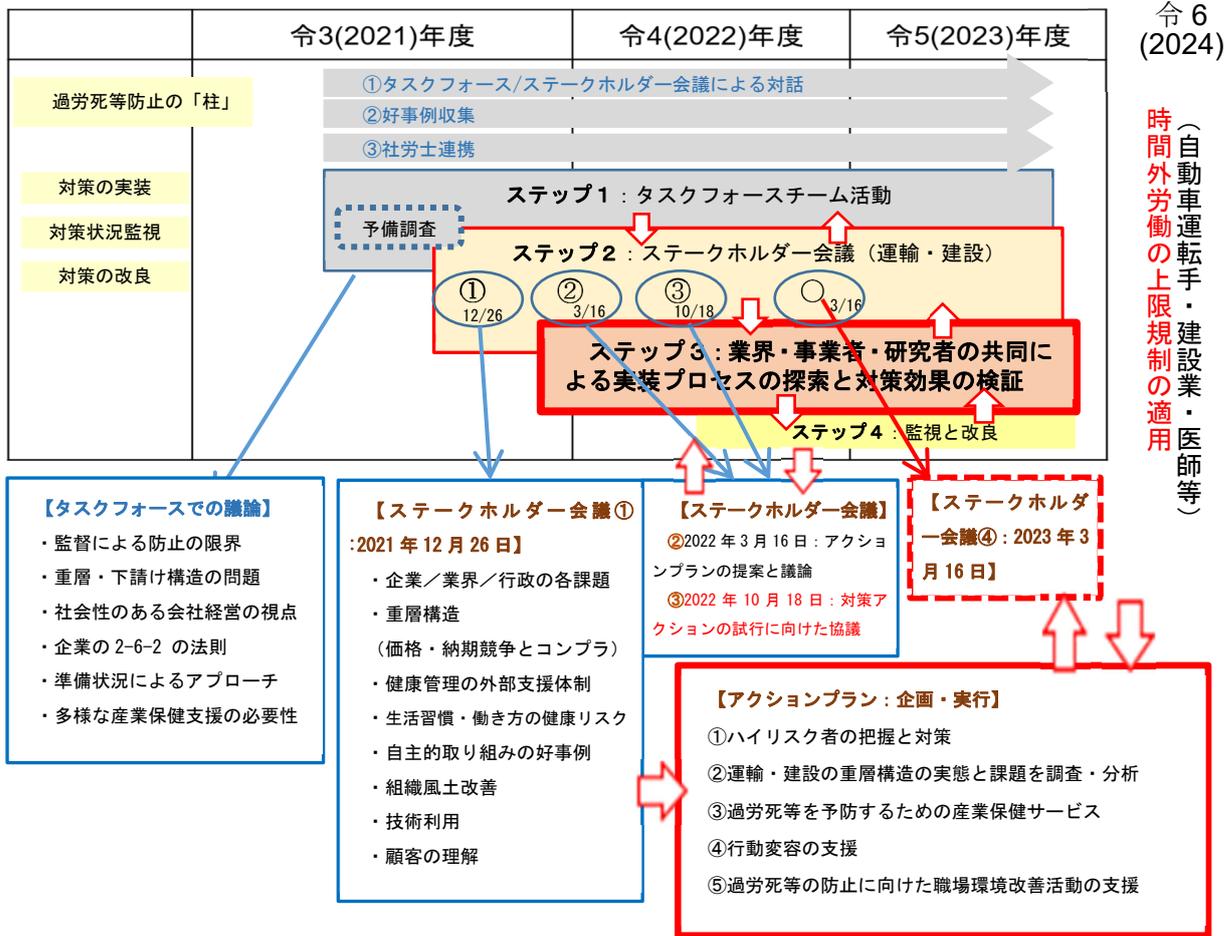


図 1. 対策実装研究(令3年度～5年度)

運輸	大手企業安全責任者	中堅企業経営者	業界団体事務局
建設	大手企業安全責任者	中堅企業経営者	業界団体事務局*
産業保健有識者	産業医チーム		
労務の専門家	社会保険労務士、キャリアコンサルタント		
研究班(事務局)	産業衛生、人間工学、労働科学研究者		

表 1. ステークホルダー会議のメンバー

アクション	目的	これまでの調査・対策検討	ツールなど		これまでの対象
1	ハイリスク者の把握と対策	<ul style="list-style-type: none"> 事業者による脳心疾患高リスク把握の試行とアンケート ハイリスク者把握支援（可視化支援など）の実装 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者による脳心疾患高リスク労働者把握把握の手引き（運輸事業者向け） アンケート調査 		<ul style="list-style-type: none"> 運輸事業者（ハイリスク者対応） ドライバー（アンケート）
2	業界重層構造の理解と深掘り	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング調査 生活時間調査・重層構造下の過労死等防止モデル事例 	生活時間調査票		<ul style="list-style-type: none"> 建設事業者（ヒアリング） 建設技術者（生活時間調査） 運輸事業者等（ヒアリング）
3	中小事業場・産業保健サービスの提案	<ul style="list-style-type: none"> 中小事業場への産業保健サービスモデル・ツールの適用調査 	規模別ツール	<ul style="list-style-type: none"> 建設業の人に優しい働き方労務・健康管理やることリスト（建設業、小規模事業者（1-9名）向け） 建設業の人に優しい働き方労務・健康管理やることリスト（建設業、小規模事業者（10～49名）向け） 建設業の人に優しい働き方労務・健康管理やることリスト（建設業、小規模事業者（50名以上）向け） 	建設事業者
4	生活習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> トラックターによる健康管理支援技術の実装に関する試行調査 睡眠、熱中症対策実装 	トラックター利用、アンケート調査		建設労働者
5	改善型チェックリストの開発と実践	<ul style="list-style-type: none"> 職場環境改善ヒント集作成 過労死等防止の職場改善の進め方手引き 職場環境改善プログラムの実装 ストレスチェック制度活用モデル事例 	AOST チェックリスト（トラックドライバーのためのチェックリスト(案)		運輸労働者 管理者

表 2. 各アクションの結果・進捗の概要